

むしくよう

虫供養

(東浦町)

農村地帯であった知多地方は、むかしから

田畑で殺した虫を供養する虫供養の行事が行

われてきました。現在では、東浦町旧五か村

と、常滑市・知多市にわたる大野谷旧十三か村

それに阿久比町の旧十六か村で行われていま

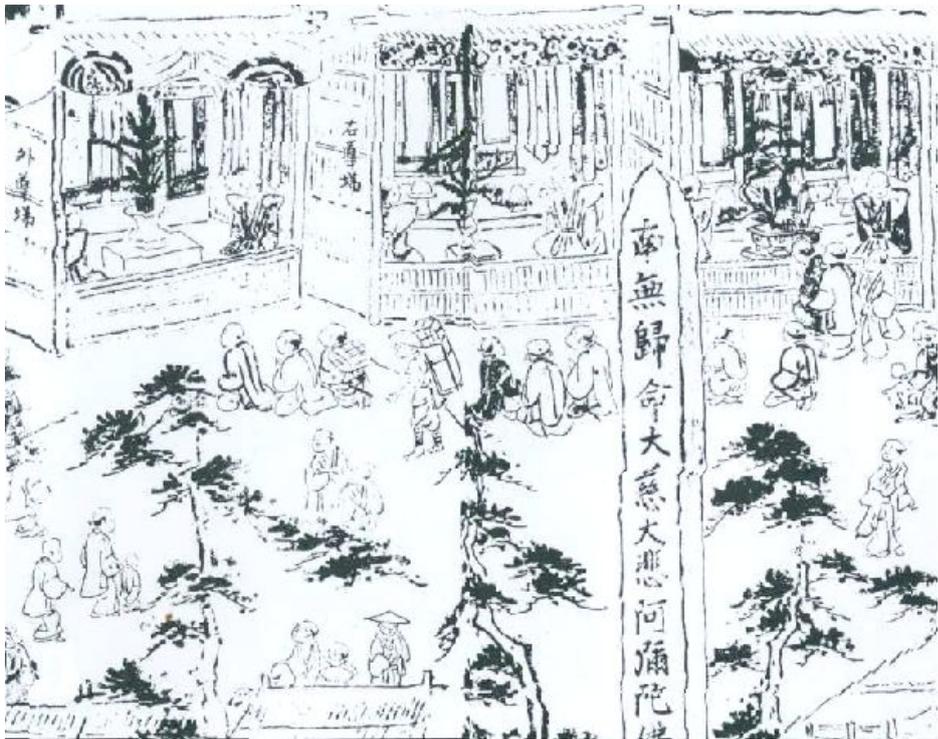
す。そして、これらをひつくるめて、「知多の虫

供養行事」として、昭和五十八年九月に、愛知県

から無形民俗文化財の指定を受けました。

この虫供養のおこりは、地域によってそれぞれ

江戸時代の虫供養の図 (張州雑志)



れ違いますが、東浦地方の虫供養については、

つぎ 次のような言い伝えが残されています。

織田信長が天下統一の戦いを進めていくう

ちに、石山本願寺を中心にした浄土真宗

(一向宗ともいう)の信者たちが、力を合わ

せて、信長勢力にたち向かったことがありまし

た。歴史に名高い石山本願寺一向一揆の戦いで

す。この戦いは、元亀元年(二五七〇)から天

正八年(二五八〇)の十年間にわたって行わ

れ、ついに本願寺側が降伏しました。

緒川の水野氏一族は、信長についてこの戦い

に加わりました。戦いが終わって水野忠守が持

ち帰った戦利品の中に、阿弥陀如来画像一幅と、

えん魔王画像三幅が入っていました。

「これは、大変貴重なものである。大事にしな

くては。」

ということ、えん魔王画像は、緒川の地藏堂に

移して保管されました。また、阿弥陀如来画像の

ほうは、城下の念仏講中に下げ渡されました。

そして、念仏講中が、下げ渡しを受けた阿弥陀

如来像を本尊仏として始めたのが、現在も行な

われている東浦五か村の虫供養だということ

です。

むかしは、念仏道場と呼ばれるわらぶきの
仮小屋を作つて、その中で供養が行われていま
したが、現在では、公民館や寺院の建物を会場
として、秋の彼岸の入りの日に行われます。
毎年の当番は、北から森岡、緒川、石浜、生路、
藤江の順に回していくことになっており、五年
に一度は当番が回ってきます。このように合併
以前から、五か村は協力し合つて、仲良く虫
供養行事を行つてきたのです。

